

# 1 学習意欲部会

## 平成28年度 学習意欲調査の結果（とちぎっ子学習状況調査より）

### 1 児童生徒質問紙の内容について

質問内容によって下の表のようなカテゴリーに分類される。「2」では各視点ごとに分析結果を示す。

視点	要素	小要素	内容
(1)学びの基礎力	①豊かな基礎体験	基礎体験 基本的生活習慣	「学びの基礎力」とは、教科学力や社会的実践力を身に付けていく上で基礎力になる力のこと、「豊かな基礎体験」「学びに向かう力」「自ら学ぶ力」「学びを律する力」の4つの領域からなっている。「学びの基礎力」は「豊かな基礎体験」をベースに、「学びに向かう力」「自ら学ぶ力」「学びを律する力」の3つの基礎力が相互に作用し合い、形成されていくと考えられる。
	②学びに向かう力	感じ取る力 学習動機 自己責任 自己有能感 達成感	
	③自ら学ぶ力	学習スキル 学習計画力	
	④学びを律する力	学習継続力 学習のけじめ	
(2)社会的実践力	問題解決力 社会参画力 豊かな心		「社会的実践力」は、児童生徒が家族や学校・地域の集団の中で、周囲と良好な人間関係を結び、様々な問題を主体的に解決しながら自らの成長を図っていく能力・スキルのことである。
(3)学級力	対話力 支え合う力 共生力 規律力		「学級力」では、「学び合う集団の形成」という観点から、左の4つの要素にカテゴリー分けされている。
(4)家庭学習力			「家庭学習力」とは、基礎体験や基本的な生活習慣の中で、特に家庭学習に関わるものを取り上げて「家庭学習力」としてまとめたものである。

### 2 各視点における分析結果

児童生徒質問紙結果について、各視点における分析結果を示す。(1)～(4)の下表は、68ある質問から抽出したものを、県全体の結果と比較し記号で表したものである。

<表の中で使用されている記号の意味>

◎:大きく上回っている(5ポイント以上)    ○:上回っている(1ポイント以上 5ポイント未満)  
 -:同じ(±1ポイント未満)  
 ▽:下回っている(1ポイント以上 5ポイント未満)    ▼:大きく下回っている(5ポイント以上)

A層:学力調査の結果、学力が高い傾向にある児童・生徒群

D層:学力調査の結果、学力が低い傾向にある児童・生徒群

※順にA・B・C・Dと4段階の生徒群に分けられている

## (1) 学びの基礎力

### ①豊かな基礎体験

質問内容	小4年	小5年	中2年
家の人と学校のできごとについて話をしている。(基礎体験)	—	○	○
家の人と将来のことについて話すことがある。(基礎体験)	—	○	—
家の方は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。(基礎体験)	○	▽	—
自分は家族の大切な一員だと思う。(基礎体験)	—	—	○
家の人と学習について話をしている。(基礎体験)	○	▽	○
毎日、朝食を食べている。(基本的生活習慣)	○	—	—
早寝早起きを心がけている。(基本的生活習慣)	○	○	—
食事のとき、好き嫌いをしないで食べている。(基本的生活習慣)	○	○	—
家でのきまりや約束を守っている。(基本的生活習慣)	○	○	—

#### <考察>

- ・市全体として、家庭の協力がとても良い傾向であることが分かった。全学年とも規則正しい生活習慣が確立されている家庭が多いと考えられる。
- ・どの学年も家の人とのコミュニケーションがよくとれている。「家の人と学習について話をしている」では、小4年で県との比較は+1.4ポイントだった。しかし、小5年では、-1.0ポイント、「家の方は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」では、-2.0ポイントであった。高学年になり、家の人とコミュニケーションがやや不足していることが考えられる。

### ②学びに向かう力

質問内容	小4年	小5年	中2年
勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。(感じ取る力)	○	▽	○
勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。(感じ取る力)	○	—	—
学校の宿題はやりたくなる内容だ。(学習動機)	○	○	○
宿題は自分のためになっている。(学習動機)	—	▽	▽
学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。(学習動機)	—	▽	▽
学習に対して自分から進んで取り組んでいる。(学習動機)	—	○	○
難しい問題に出会うとやるきがでる。(自己有能感)	○	▽	◎
自分はクラスの役に立っている。(自己有能感)	▽	○	▽
自分は勉強がよくできる方だと思う。(自己有能感)	—	—	▼
自分には、よいところがあると思う。(自己有能感)	○	▽	—

#### <考察>

- ・小4年は全体的に県平均を上回っている。課題に対し「なぜだろう」と考えたり、さらに難しい問題に挑戦したいと考える児童が多い。また、勉強がおもしろいと感じている児童も多く、高い学習意欲につながっていると考えられる。
- ・小5年は全体的にマイナスの回答が多い中、「クラスの役に立っているか」については、プラスの結果となっており、自己有能感が高いと言える。
- ・中2年は学習や授業の課題に対する意欲・姿勢は高いが、「学んだことが将来に役立つか」や「自分は勉強ができる」という質問に対しては否定的な回答の生徒が多い。中学生になり、より客観的に自己を捉えるようになってきているのではないかと考えられる。
- ・全体的には、「感じ取る力」や「自己有能感」「学習動機」について県平均よりも高い傾向にあり、自信をもって学習に取り組んでいる児童生徒が多いと考えられる。A-D層の比較に関してはどの学年も同じような結果が出ており、学力が高いと学習への取組もよく、自己有能感も高いと言える。これは学年が上がるほど

顕著な傾向である。

- ・勉強が難しくなってくる中学1年生から2年生の学年において、全員が意欲をもって学習に取り組める指導の工夫が課題であるとする。そのためにも興味・関心をもてるような学習の展開が必要である。またキャリア教育との関連を図り、学ぶことの意義を考えさせていくことも大切である。

③自ら学ぶ力 ④学びを律する力

質 問 内 容	小4年	小5年	中2年
本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。(学習スキル)	◎	◎	▽
時間を上手に使うことを心がけている。(学習計画力)	○	—	○
疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。(学習継続力)	◎	—	○
授業を集中して受けている。(学習のけじめ)	○	○	▽

<考察>

- ・勉強に関する情報を収集する力については、小4年で+9.3ポイント、小5年で+6.0ポイントであった。A-D層の比較でもA層が良い結果となった。しかし、中学生になると-1.9ポイントとなり、情報収集の時間の確保が難しいことも一因ではないかと考える。
- ・全体の傾向として、疑問や不思議に思うことを調べたいという気持ちがとても強いことが分かる。A-D層の比較でも全ての学年において差が大きい(20ポイント以上の差)。また、時間を有効に使うことに気を付けながら学習していると言える。
- ・「授業を集中して受けている」項目では、中2年が-1.6ポイントであった。授業内容の難易度が上がるにつれ、授業に対する意欲が少しずつ低下していると考えられる。1時間の授業の中における明確なねらいの提示や、学びの深まりを実感できる振り返りを工夫することが大切であるとする。

(2) 社会的実践力

質 問 内 容	小4年	小5年	中2年
授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。(問題解決力)	▼	▼	▼
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。(問題解決力)	○	○	○
自分のよさを人のために生かしたいと思う。(社会参画力)	—	○	▽
自分もっている能力を十分発揮したい。(社会参画力)	○	○	—
テレビのニュース番組やインターネットを見ている。(社会参画力)	○	—	○
地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。(社会参画力)	○	—	▽
毎日の生活が充実していると感じている。(豊かな心)	▽	○	○
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。(豊かな心)	—	▽	—
人と話すことは楽しい。(豊かな心)	—	○	—
誰に対しても、思いやりの心をもって接している。(豊かな心)	—	—	▽

<考察>

- ・問題解決力について、自分の考えをもち、それを文章で表現することは、小4年、小5年、中2年と学年が上がるにつれ難しいと感じる傾向がある。特にD層において難しいと感じている割合は、どの学年も70ポイント前後と高い。
- ・社会参画力について、「自分もっている能力を十分発揮したい」と回答している割合はA、B、C、D層とも

80ポイント以上と高い。また、小4年、小5年、中2年と学年が上がるにつれ、D層の肯定回答の割合が高くなっている。これは、中学校における職場体験などのキャリア教育の充実が自身の能力に目を向けさせ、自己実現への意欲を高めていると考えられる。

- ・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」割合はA、B、C、Dすべての層において90ポイントを超えている。さらに、小4年、小5年、中2年と学年が上がるにつれ、ニュースを見る割合が高くなっている。小学校では学力の高い児童が社会の問題に関心が高い傾向にあるが、中学校では、学力に関係なく平均的である。
- ・豊かな心については、小4年、小5年、中2年と学年があがるにつれ「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する」という意欲が低くなっていく傾向にある。
- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対する肯定的な回答は、学年が上がるにつれて低くなっている。

### (3) 学級力

質 問 内 容	小4年	小5年	中2年
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。(対話力)	○	○	○
授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。(対話力)	○	○	◎
クラスは話しやすい雰囲気である。(対話力)	▽	○	○
授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。(対話力)	○	○	○
学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていと思う。(対話力)	○	○	○
クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(共生力)	○	○	○
授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。(規律力)	○	○	◎
授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。(規律力)	○	—	▽

#### <考察>

- ・学級力に関しては、市全体として良好な結果である。「対話力」「共生力」「規律力」など、ほとんどの質問項目で県平均を上回っている。
- ・「発言の機会」については、どの学年も県平均を上回っている。A層とD層の比較を見ると、A層に比べてD層は20～30ポイント以上も下回っており、D層の児童生徒が疎外感を感じている傾向がある。
- ・「授業中の話し合う活動」に関して、中2年では県平均を9.4ポイントも上回っており、十分な時間が確保されていると言える。
- ・小4年の「話しやすい雰囲気」が県平均を1.8ポイント下回っているが、D層の児童が特に低い数値(58.7ポイント)を示しており、A層(87.3ポイント)と28.6ポイントの開きがある。発言の多いA層の児童の意見を中心に授業が進められ、D層の児童は、授業の中で疎外感を感じているのではないかと考えられる。
- ・中2年の「学習した内容を振り返る活動」では、県平均を12.4ポイント上回っており、授業の中で振り返りの時間が十分に確保されていることが分かる。
- ・中2年の「ノートに学習のめあてとまとめを書く」に関して、県平均を3.8ポイント下回っているが、これは話合いの時間を多く確保している影響があるのかもしれない。話合いをもとに自分の考えを練り上げ、書く時間も確保していきたい。

#### (4) 家庭学習力

質 問 内 容	小4年	小5年	中2年
家で、自分で計画を立てて勉強している。	○	—	○
家で、学校の授業の予習をしている。	○	▼	▽
家で、学校の授業の復習をしている。	—	▽	○
家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	○	○	—
家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	○	—	◎
家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。	◎	—	▽

#### <考察>

- ・小4年は、ほとんどの項目で県平均を上回る良好な結果が出ている。家庭学習の習慣が身に付いており、家庭での学習にも前向きに取り組む児童が多いことが伺える。
- ・小5年は、「予習や復習」に関する項目が県平均を下回っている。その他の項目は、県平均とほぼ同じ結果となっている。
- ・中2年は、「宿題のほかに自分で考えた勉強をする」項目が県平均を大きく上回っており、知的好奇心が高いことが考えられる。しかし、「授業の予習」や「同じ時刻に勉強する」項目に関しては、県平均を下回っており、小学生に比べて時間の確保が難しいことが伺える。
- ・全体的に見ると、家庭での学習にも前向きに取り組んでいると考えられるが、「授業の予習」に関しては、県平均を下回っている学年が多い。また、「テストで間違えた問題について勉強をしている」項目に関しては、小4年と中2年において、A-D層の差が大きい。テストが終わった後の分析や指導を丁寧に行うことが大切である。
- ・以上の結果から、予習や復習の必要性や取組方法を十分に理解できていない児童生徒がいることが伺える。学習方法を丁寧に指導するなど、家庭学習への積極的な取組について指導の工夫が必要である。

### 3 今後について

今年度は「とちぎっ子学習状況調査」における児童生徒質問紙の分析を行った。今年だけのデータでは比較することが難しい部分も多くあるため、来年度以降も継続的にデータを蓄積する必要がある。

また、今年度の調査結果については比較的良好であったが、学習意欲の向上のための具体的な取組に関しては、本部会での研究の大きなテーマとして研究を続けていく必要がある。下野市内の児童生徒が意欲をもって学習に取り組めるよう、各学校で指導の工夫・改善に努めていただいているところではあるが、学習意欲部会では、更に指導改善の手助けができるような調査分析を続けていきたい。